

1. 大学名：帝塚山学院大学

2. 認証評価実施年度：平成 29 年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

○リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科の収容定員充足率が継続して 0.7 倍未満であり 改善を要する。

4. 改善状況及び結果

基準項目 2-1 について

平成 30(2018)年度のリベラルアーツ学科の入学者は 96 名(定員 130 名)であり、前年度より 30 名増加し、入学定員充足率は 73.8%となり、前年度より 23 ポイント上昇した。これにともない収容定員充足率は 55.0%となり、依然として 0.7 倍未満であるが、前年度より 4 ポイント上昇し、在学者数の減少に歯止めがかかり増加に転じることができた【資料 2-1-1】。こうした向上については、以下の取組みが効果を現し始めたものとする。

①学生募集活動の強化

平成 30(2018)年度学生募集当初から、入試データのあり方とその取扱い方法について、アドミッションセンターと学生募集委員会を軸に見直しを徹底し、その共有、分析、活用の検討を重ね、科学的な検証を伴う対応策を立案し、適宜、教授会において情報を公開しながら、PDCA サイクルを実現させた。

平成 29(2017)年 4 月よりアドミッションと広報に関する専門性を有した外部人材 3 人を採用するとともに、高校訪問のための人員増強を行った。また、各学科を専門に担当する職員を配し、学科の教員とともに学科別の広報戦略の立案から進捗管理を行うためのシートを作成し、的確な情報発信を行うことで、募集活動の向上に取り組んだ。

ホームページはデザインを一新し、紙媒体などとビジュアルイメージを統一し、帝塚山学院大学の全学的なブランドイメージとともに、学科の内容に即した新しいイメージを伝達できるものとした。

さらに Web 上での広報として、平成 29(2017)年より Web リスティング広告を導入することにより、新たな志願者層の獲得を目指した。

リベラルアーツ学科として、具体的には、以下の施策により改善の効果が見られることとなった。

1) 専攻・コースごとに細分化した数値目標の設定

平成 29(2017)年度までの志願者状況把握のデータ保有名簿では、学科を志望しているか否かだけの判別しかできていなかった。平成 30(2018)年度は、志望専攻・コース

にまで至る詳細属性把握率を向上させるとともに、高校訪問などで提供された情報をリンクさせ、コースに細分化された志望者の動向、高校訪問時の情報提供、イベントにおける重点の設定に生かすシステムを構築し、適切で効率的な情報提供を実現できた。

2) 高校との連携強化

・高校のイベント補助など地域の教育活動に貢献

近隣高校で中国語や韓国語の授業を設けている高校に、出張講義やイベント実施指導を含めた教育活動の連携を行い、地域における教育活動に貢献することで、リベラルアーツ学科の学びの特性に関する広報活動とした。

・高校訪問の強化

高校訪問においては、リベラルアーツ学科の多様な専攻・コースの在り方に適合する志望者データに基づき、適合志望者への訴求度の高い広報資料【資料 2-1-2】を用い、各高校の進学希望者と本学科のマッチングの精度を高めることができた。

3) 韓国語コースの訴求の強化

本学科の東アジア専攻韓国語コースは、他コースに比べて競合大学が少なく、この分野を望む高校生にとって志望上位となることが想定された。例年オープンキャンパスの特別企画として催している韓国文化交流イベントは平成 29(2017)年には延べ 150 人が参加し【資料 2-1-3】【資料 2-1-4】、出願に結びつくものとなっている。こうした状況に鑑み、Web 上の広報や大学受験情報誌に韓国語コースに特化した広報活動を学科全体のそれと並行して行うこととした【資料 2-1-5】。韓国語コースにおける複合的に活躍できる専任教員の補充（②-3 に詳述）に加え、韓国語専門出版社との協定【資料 2-1-6】を実現し、韓国語教育活動の充実とリベラルアーツ学科の広報が融合した協働体制を創出できたことは、他に類例を見ない訴求の強化策となった。

4) オープンキャンパスの来校者数増加の実現

オープンキャンパスにおいては、事前予約制度を導入し、リベラルアーツ学科・専攻志望の情報をもった効果測定ができるシステムを構築した。

オープンキャンパスの充実を図る改善として、教員企画と学生企画を含む形での来学者向け参加プログラム数を増加し、高校生の関心を引く平易な導入から研究の醍醐味へと導くことのできる工夫を凝らした内容を用意し、質量ともに充実させた【資料 2-1-7】。本学科はオープンキャンパスからの出願率が高く、オープンキャンパスへの動員数向上が出願数増加と比例することとなるが、平成 29(2017)年度のオープンキャンパス動員数は前年度比 140%と大きく伸ばすことができた。

5) イベントおよび各入試終了後のフォローアップ

オープンキャンパス参加者に手書きで御礼ハガキを出すなど、直後のフォローアップを行うとともに、参加者の所属高校への高校訪問においてイベントや入試に関する

事後の意見聴取を行い、運営の向上に役立てるようにした。入試においては、各入試合格者に「祝合格」レターを送付し、歓迎の意を伝えるとともに、本学科への入学に関しての最終的な意志決定において役立つ情報提供を行った。

②リベラルアーツ学科の特性を活かしたカリキュラムの充実と訴求

リベラルアーツ学科は、幅広い専攻とその組み合わせの柔軟性を特性とするカリキュラムを有してきたが、平成 29(2017)年度に、よりその方針に即して、かつその魅力を訴求しやすいものとするべく、カリキュラム改訂を実施した。平成 30(2018)年度を迎えるにあたり、その改訂内容への理解を内外により確実に実現するために、さまざまな機会において、鋭意、内容のさらなる充実とそれにとまなう訴求に努めた。こうしたプロセスにおいて、学科の教育ポリシーへの理解およびその実現への信頼が得られつつあることが上記の数値上昇として現れていると考えられる。以下にこの点について「1)カリキュラム構成の工夫と改編」、「2)カリキュラム構成の改訂に加味した内容と方法の改善」、「3)カリキュラム構成の工夫と改編を補完する確実な改善の施策」の順に詳述する。

1)カリキュラム構成の工夫と改編

教育課程の編成及び実施については、カリキュラムマップに示すとおり、ディプロマポリシーとの一貫性を確保している【資料 2-1-8】。「専門基礎科目」と「国際教養科目」については、学科の包括的なディプロマポリシーに即し、「専攻学習科目」においては、専門性に関するディプロマポリシーのもと編成され、「演習科目」、「特別科目」においては、専門性と総合性を兼ね備えた学修成果の提示としてディプロマポリシーとの一貫性を保っている。

平成 29(2017)年度のカリキュラム改訂においては、従来の 7 専攻を統廃合し、3つの専攻学習科目群「日本学専攻」「東アジア専攻」「美学・文化表現専攻」に再編することにより、カリキュラム・ポリシーへのより柔軟な対応を実現し、学生および受験生に対するカリキュラムへのアプローチをよりわかりやすくし、門戸を開く効果をもたらした。また、これまであった専攻科目「グローバル言語・文化」に関する 6 科目を学科全体に共通した学科専門科目「国際教養科目」とするなど、専攻学習科目群としてはカテゴリー数が減少したが、学生の興味、関心に応じて履修できる科目の分野の幅が同一専攻科目群の中で広がりをもたせることになった。さらに、これまで「共通科目」の「導入学習科目」とされていた「リベラルアーツ入門Ⅰ、Ⅱ」「専門基礎演習Ⅰ」を、「学科専門科目」内に新設した「専門基礎科目」枠に移行し、その新たな位置づけにより、学科専門科目の学修をより体系的なものとした。加えて、修得すべき単位の配分については、これまでは共通科目 44 単位、専門科目 33 単位、その他 47 単位という内訳で、共通科目が専門科目より多い構成であったが、同改訂に伴い、共通科目 32 単位、専門科目 72 単位、関連科目 20 単位の配分に改めた。これにより、専攻の学修を深め、さらにその他の分野の学修を促して、よりリベラルアーツの理念にふさわしい教育を実現できることとなった【資料 2-1-9】。

2) カリキュラム構成の改訂に即した内容と方法の改善

こうしたカリキュラムの改訂に加え、その内容と方法の改善として以下のものが挙げられる。

・ 実地体験・実践学修としてのフィールドスタディーズの充実

年次や専門を横断するかたちで受講がなされる「特別科目」の「フィールドスタディーズ」では実地体験の場として各コースの特性に応じて工夫を凝らし、充実させた。

・ ワークショップ形式による文芸や美術の制作をテーマにした授業の実現

「特別科目」の「ワークショップ」3科目では、学外で活躍する作家による参加体験型の授業を実施し、創造的な刺激と実践的な創作作法を創作者から直接学ぶ機会を提供した。著名な俳句作家による近代文学、「専攻学習科目」の「創作研究(小説)」において文学賞作家、「創作研究(ライトノベル)」においてライトノベル作家を講師として招聘した。

・ 提携大学との半年留学プログラムの実施

中国と韓国の提携先大学（北京大学、高麗大学）へ半年留学する機会を2年次の後期に設け、実施を継続している。韓国への留学希望者増加の傾向に対し、専任教員の増強、客員教員の活用、補助金制度の利用等により、充実を図った。

3) カリキュラム構成の工夫と改編を補完する確実な改善の施策

リベラルアーツ学科の教育の特徴である幅広さと専門性の両立は、平成29(2017)年度の7つの細分化された専攻科目群を大きな3つの専攻科目群に再編したことで達せられ、同時に、学生の多様で変化する専門性の希求に対応できる柔軟性を得たことはすでに記したとおりである。こうした体系的な教育課程を維持向上し、教育内容の充実に資するためには、複合的な専門性を有する人材の登用により、限られた専任教員の補充の機会をカリキュラム強化に結び付ける工夫が必要であった。この点に関し、平成29(2017)年において、まずは韓国語と日本語教育の強化を受験生に訴求すべく、韓国語教育と外国人への日本語教育を担える教員の採用を計画し、平成30(2018)年度からの実現について前年度から告知することができた。

また、文芸創作の分野については、「学科専門科目」内の「演習科目」としての「専門基礎演習Ⅱ」「専門応用演習」において、実際の創作活動を行っている講師が担当することで強化を始めたが、さらにその分野に関する体系的な科目を配置する必要があった。この点に関しても、客員教授、作家を招聘し、より実践的で充実した学びを実現し、高校生にもアピールできる内容となった【資料2-1-10】。

③入学定員の見直しや学科の再編に向けての検討

入学者数の確保を確実に図る一方、入学定員の見直しや学科の再編といった、構造自体の改善についても検討し、定員充足率の改善をより確実なものとするため、平成30(2018)年3月の理事会において、リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科の入学定員を平成31(2019)年度に130名から120名に削減する方針、および平成33(2021)年には泉ヶ丘キャンパスへ校地を集約することを決定し、再編に向けた準備作業を行って

いる【資料 2-1-11】。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目 2-1 の資料

コード	該当する資料名及び該当ページ	備考
【資料 2-1-1】	リベラルアーツ学科の入学定員充足率および収容定員充足率推移	
【資料 2-1-2】	リベラルアーツ学科パンフレット	
【資料 2-1-3】	韓国文化交流イベントチラシ	
【資料 2-1-4】	韓国文化交流イベント参加者数	
【資料 2-1-5】	スタディサプリ広告画面	
【資料 2-1-6】	帝塚山学院大学と株式会社 HANA との連携協力に関する基本協定書	
【資料 2-1-7】	平成 29 年度オープンキャンパスパンフレット	
【資料 2-1-8】	平成 29 年度リベラルアーツ学科カリキュラムマップ	
【資料 2-1-9】	卒業に必要な総単位数（平成 29 年度学生要覧抜粋）	
【資料 2-1-10】	帝塚山学院大学 大学案内 2018	
【資料 2-1-11】	理事会議事録（平成 30 年 3 月 29 日）	

1. 大学名：帝塚山学院大学

2. 認証評価実施年度：平成 29 年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

○学年進行中の人間科学部キャリア英語学科における入学定員充足率が 0.5 倍未満であるため改善を要する。

4. 改善状況及び結果

基準項目 2-1 について

平成 30(2018)年度のキャリア英語学科の入学者は 45 名（定員 50 名）で、入学定員充足率は 90.0%であった。完成年次を迎えての収容定員充足率は 54.0%に留まったが、今年度の入学定員充足率は大きく向上した【資料 2-1-12】。向上については、以下の取り組みが功を奏し始めたものとする。

①学生募集活動の強化

平成 30(2018)年度の募集広報においては、アドミッションセンターが各学科についての広報戦略を立案し、シートを作成した。それを各学科と共有し推進するために学科担当職員を割り当て、定期的な情報・課題共有の場を持つこととした。

各種アンケート等の結果や入学生からの聞き取りにより、キャリア英語学科に対する認知度がまだまだ低いことが明らかとなった。また、他学科と比べてオープンキャンパスからの出願率が低い点も、当学科の特徴であった。このことから、アドミッションセンターと学科教職員の分担により、多角的なチャネルを用いた広報活動につとめた。

具体的には、以下の施策を行った。

1) 高校との連携強化

・英検対策講座の実施など

平成 29(2017)年 5 月 8 日、8 月 5～6 日、12 月 10 日の全 3 回、英検対策講座（2 級・準 2 級講座）を実施した。近隣の高校に広報するとともに、説明会や資料請求等で接触のあった高校生に DM を送付し、勧誘した。同講座参加者が出願したケースもあり、何より学科に対する認知度が向上したと考える【資料 2-1-13】【資料 2-1-14】。

・高校訪問の強化

アドミッションセンターの学科担当者と連携を図り、公募推薦入試及び一般入試出願促進を目的とした高校訪問を実施した。合格者・不合格者を問わず受験生の出身高校に対する丁寧な訪問と、競合校への受験者を多く輩出している高校への訪問に力を入れた。進路指導部のみならず、可能な場合は英語

担当教員へのアプローチも推進した。

2) オープンキャンパスの改善

・プログラムの見直し

平成 29(2017)年度より、キャリア英語学科の本拠地である狭山キャンパスに学科ブースを設置し、複数の参加型プログラムを展開した。学科現役学生たちをサポートとして登用し、各ブースの運営を学生中心に実施すると同時に、キャリア英語学科の学びの実際をアピールする努力を行った。アドミッションセンターの学科担当者による入試説明、学科教員による丁寧な学科の学びの紹介と保護者対応、そして現役学生による具体的な学びの紹介、特に留学プログラム体験等の紹介や、受験生のさまざまな疑問・質問に応じるサービスを実施したことで、特に A0 入試や指定校推薦等の早期に実施される入試への出願に好影響を及ぼしたと考えられる(昨年比 260%)【資料 2-1-15】。

・終了後のフォローアップ

オープンキャンパス参加者に手書きで御礼ハガキを出すなど、直後のフォローアップを行うとともに、参加者の所属高校への高校訪問、さらには学科 Newsletter(後述)の送付を継続的に実施した。

3) 多角的な広報

・SNS の活用

学科独自の Facebook 及び LINE を設け、学科広報活動を展開した。

・学科独自パンフの作成

学科独自パンフを作成し、オープンキャンパスや説明会で配布するとともに、資料請求者にも送付し、学科の特色がわかりやすく伝わるよう工夫した【資料 2-1-16】。

・学科 Newsletter の作成

平成 30(2018)年度入試スタート直前の 10 月より 5 回にわたり学科 Newsletter を作成し、資料請求やオープンキャンパスへの参加等の接触があった高校 3 年生を中心に郵送した。同 Newsletter では、学科の特色あるプログラムや先輩学生たちの動静を紹介するとともに、直近の入試に対する出願促進を実施した【資料 2-1-17】。

・入試出願を促進するためのハガキの送付

出願期間直前、または期間中に、出願を促進するハガキを送付した【資料 2-1-18】。

・入試合格者に対する「歩留まりレター」の送付

各入試合格者に「祝合格」レターを送付し、歩留まりの向上を図った【資料 2-1-19】。

②教育内容の充実

海外や社会とつながる実践的な学びを行うこと、少人数体制できめ細かな教育指導

を行うことを学科開設時からの特徴としてきた。3年間を経て、学生は順調な成長を見せており、また大学生活への満足度も高い【資料 2-1-20】。

具体的には、以下の諸点である。

1) 海外とつながる取り組み

平成 27～29(2015～2017)年度入学生(計 64 人)のうち、1 年次から参加できるマレーシア短期研修留学(3 週間)に 27 名、2 年次以降の英語圏半年留学または 1 年留学に 28 名(平成 30 年度予定者を含む)が参加している。学生の英語コミュニケーション能力を伸ばすとともに、英語をツールとした異文化理解力を高め、グローバル化が進展する今日の世界において様々な分野で活躍できる職業人を育成することを目的として設置しているプログラムである。参加した学生たちは、それぞれに素晴らしい体験と成果を手に帰国し、その後も英語力のみならず、人間的な成長を見せている。

2) 社会とつながる取り組み

社会人との交流を通じてキャリアの形成とスキルの獲得を実現させる取り組み“TEZ-LINK”を、学年ごとに実施している。具体的には、1 年次において各分野の職業理解、2 年次前期で職業体験、2 年次後期から 3 年次にかけては地域・企業からの課題による PBL 学習を行っている。学生たちの職業理解、社会人との交流、プロジェクトワークおよびグループワーク力、プレゼンテーション力が着実に向上している。

3) 共通教育の充実

平成 29(2017)年度より全学的に、共通教育カリキュラムの見直しを行った。キャリア形成に密接につながる能力強化を果たすための科目設定と、学生一人ひとりへのきめ細かな指導体制の整備が主な目的であった。具体的には、基礎教育(日本語、ICT 等)とキャリア教育の科目を見直すとともに、入学から 2 年次後期までにわたる少人数科目「基礎演習」科目を新設した。「基礎演習」は、各学科のアドバイザー教員が担当している。全学的な事項ではあるが、もともと社会とのつながり、きめ細かな指導を志向してきたキャリア英語学科では、順調に機能している。

なお、上記の内容はオープンキャンパスや各種広報媒体を通して受験生等への周知にもつとめており、募集活動の一助ともなっている。

③入学定員の見直しや学科の再編に向けての検討

こうした施策を行う一方、入学定員の見直しや学科の再編といった、より抜本的な手立てについても検討を行っており、平成 29(2017)年度時点で、平成 31(2019)年度を目途に入学定員の削減、平成 32(2020)年度には学部・学科の再編を行うこととしていた。施設・設備の有効利用、学生サービス業務の効率化、学内活動の時間的・人的効率等の観点から「ワンキャンパス化」が本学の中長期的重要課題であり、この点も含めて改めて検討を行った。結果、平成 30(2018)年 3 月の理事会において、人間科学部キャリア英語学科は平成 31(2019)年度入試において入学定員を 50 人から 30 人に削減

する方針、および平成 33(2021)年には泉ヶ丘キャンパスへ校地を集約することを決定し、再編に向けた準備作業を行っている【資料 2-1-21】。

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目 2-1 の資料

コード	該当する資料名及び該当ページ	備考
【資料 2-1-12】	キャリア英語学科の入学定員充足率および収容定員充足率推移	
【資料 2-1-13】	2017 英語対策集中セミナーチラシ	
【資料 2-1-14】	2017 英語対策集中セミナー参加者数一覧	
【資料 2-1-15】	平成 29 年度オープンキャンパスパンフレット	
【資料 2-1-16】	キャリア英語学科パンフレット	
【資料 2-1-17】	キャリア英語学科 Newsletter	
【資料 2-1-18】	入試出願を促進するためのハガキ	
【資料 2-1-19】	入試合格者に対する「歩留まりレター」	
【資料 2-1-20】	平成 29 年度学生生活満足度調査結果報告書	
【資料 2-1-21】	理事会議事録（平成 30 年 3 月 29 日）	